

令和2年度 第3回豊橋市総合教育会議議事録要録

令和2年12月16日 開 催

豊橋市教育委員会

第3回 総合教育会議

日時	令和2年12月16日(水) 午後2時00分～3時00分
場所	市役所東館4階 政策会議室
構成員	浅井 由崇 市長 内浦 有美 教育委員 中島 美奈子 教育委員 山西 正泰 教育長 渡辺 嘉郎 教育委員 西島 豊 教育委員
事務局	黒釜 直樹 財務部長 駒木 正清 教育監 中村 三木也 学校教育課長 浅倉 淳志 教育政策課主幹 大林 利光 教育部長 角野 洋子 教育政策課長 ほか 4名
その他	傍聴人 5名

議事日程

市長あいさつ

協議事項

- 1 教育大綱について
- 2 イマージョン教育について

その他

- 1 今後の協議事項について

連絡事項

次回開催日程 令和3年2月17日(水) 15:00～

(市長)

ただいまから令和2年度第3回豊橋市総合教育会議を開催させていただきます。
協議事項は、2点ございまして、教育大綱についてとイマージョン教育についてです。

協議事項

1 教育大綱について

■教育政策課長 協議事項について資料説明

(市長)

基本姿勢の「豊橋をおもい、未来をつくる」と、3つのメッセージ、それから全体のレイアウトについてですね。どこからでも結構ですので、ご意見をいただけたらと思います。

(西島委員)

前回のものから読みやすくなったと思います。ただ、3つのメッセージですが、フォーマットの関係で単語の途中で改行されているので、途切れない方がいいと思います。

(教育政策課長)

ありがとうございます。修正します。

補足になりますが、3つ目のメッセージには、ふるさと豊橋への想いだけでなくグローバルな視点も、という西島委員の意見を踏まえ、「グローバルな視野」も加えています。

(市長)

とても大切なことですね。強制するのではなく、自然にふるさと愛が育まれるような教育が大切です。国に対する想いも、ふるさと愛の延長線上にありますし、そういう想いがある人は、グローバルな人材になれると思います。

(教育長)

子どものタブレットの画面に、この大綱が出てくるのですね。「市長からのメッセージ」という言葉がありますが、「市長から」とあると、呼び捨てのように感じるので、「市長さんから」とした方が温かみを感じます。昔、「市長さんと語る会」というのがあって、そのときも「さん」が添えられていました。「市長」は呼称なので「市長から」が正しいのですが、子どもに向けたものはその方がいいと思います。

(中島委員)

確かに、子ども向けのものには、柔らかい表現にした方がいいと思います。例えば、保育園でも、「理事長いますか」とか「園長いますか」と言われるより、「園長先生いますか」の方が優しく感じます。同じことを伝えるにしても、印象がずいぶん変わります。

(教育政策課)

その部分については、教育大綱を誰に向けて策定するかによります。今は、市民の皆さんに向けてと考えていますが、タブレットに掲載する関係で子ども向けになると、全体の表現も変える必要がありますので、メインターゲットを誰にするのかも併せてご意見をいただきたいです。

(市長)

「おもい」「つくる」とひらがなにしているので、子ども向けのように見えます。

(教育政策課長)

使う漢字については、「想い」の方が伝えたいニュアンスが伝わりやすいと考えたのですが、常用漢字として「想い」は「おもい」とは読みません。ですが、常用漢字の「思い」を使うと、こちらの意図が伝わりづらくなると考え、ひらがなで「おもい」にしています。

未来をつくるの「つくる」も「創る」としていたのですが、これも常用漢字ではないためひらがなにしています。

(教育長)

やはり、教育大綱は市民全体に向けたものでしょうか。

(教育政策課長)

一般的にはそうです。公共施設等で周知し、保護者を含む大人も対象です。前回の総合教育会議では、子どもたちに対しても教育大綱を周知するためにタブレットに入れることを提案していただきました。

(市長)

そうすると表現が難しいですね。そもそも子どもたちにとっては、「教育大綱って何だろう」となると思います。

(渡辺委員)

ふりがなをふれば伝わりやすくなるのではないですか。

(教育長)

子ども用と大人用を2つ作るというのはどうでしょう。

(中島委員)

子ども用の表現であれば、外国の方にもわかりやすいかもしれません。

(内浦委員)

英語などの翻訳版も作ってみてもいいかもしれませんね。

(渡辺委員)

メッセージの1つ目の「自分の個性をしっかりと伸ばし」の「しっかりと」は不要なのではと思います。

(教育長)

3つのメッセージの字数をそろえるために入れた言葉です。事務局には、その点に気をつけて言葉を選んでこの案を作ってもらいました。

(教育政策課)

表現については、今後も事務局で検討いたします。

改めて誰をターゲットにするのかについて、子ども向けと市民向けに2パターン作る

か、子ども向けに特化するかなどについてはいかがですか。

(内浦委員)

大事なことは共有することです。子どもとも共有する、保護者とも共有する、日本語の堪能でない方とも共有する。そう考えると、それぞれのターゲットごとに作り替えるべきだと思います。

(渡辺委員)

子ども用と大人用を作ることができるのなら、その方がいいと思います。

(内浦委員)

市長さんもおっしゃったように「教育大綱とは何か」を、子どもにも知ってもらだけでも意味があると思います。

(市長)

また、下部に「豊橋市の教育大綱は、豊橋市の教育に関する基本的な姿勢を示すものです」という文も、子どもには難しいかもしれませんね。

事務局としては、今の2パターン作るというご意見に対してはどうですか。

(教育政策課長)

子ども用と大人用をそれぞれ作りたいと思います。

(教育長)

「想う」と「創る」の表記はどうしますか。

(教育政策課長)

子ども用と大人用と2パターンあっても表題は共通のものがいいと思いますので、このまま、ひらがなの「おもう」「つくる」でいいのではないかと考えています。

(渡辺委員)

漢字の「想う」「創る」の方が伝えたい意味が伝わるような気がします。ひらがなにすると、ねらいがぼけてしまう気がします。

(市長)

常用漢字の考え方としては問題ないですか。

(学校教育課長)

子どもたちは教科書表記で学んでおり、ひらがな表記を勧める字もあります。

(教育長)

この部分については、漢字の使い方をよく確認しましょう。

(市長)

では、漢字のところは確認してもらって、使えるのであれば、「想う」「創る」を使うということで。また、大綱の説明や3つのメッセージも子ども用の表現にし、字数をそろえ

るところも考えていくという方向で進めるということでもいいでしょうか。
そのほかレイアウトについてはご意見ありますか。

(教育長)

文体は、ゴシック体でいいですか。

(内浦委員)

ユニバーサルデザインのフォントがあります。それが見やすいのかわかりませんが、そのフォントを検討してみたいかたがでしよう。文字の大小でメリハリをつけて、大切な部分は大きくするなどしてはどうでしょうか。

(教育政策課長)

2月の総合教育会議には、フォントやレイアウトなども整えて子ども用と大人用をお示ししたいと思います。

最後に「3つのおもい」について、ほかに必要な視点などはございますか。

(教育長)

参考までに、新しい学習指導要領上での道徳の教科書では、「個人」「仲間」「社会」「自然」の4つの視点が挙げられています。

この視点のうち、「社会」「自然」を大綱の3つ目のおもいの「郷土愛」の部分に当てはめて考えていいかどうか。道徳の視点に合わせる必要はないわけですが、いかがでしょうか。

(市長)

「ふるさと」には、「社会」「自然」も含まれているのでいい気がしますが。

(中島委員)

ほかに「歴史」や「文化」などの意味も包括されていると思うので、それらが「ふるさと」という言葉で伝わるといいです。

(市長)

ところで、メッセージ1つ目の「将来の夢に向かって」と3つ目の「自分の選んだ道」は意味が重なる部分がありますが、どういう違いがありますか。

(教育政策課長)

「自分の選んだ道」というのは、豊橋だけでなく、様々な場所でも活躍してほしいというニュアンスで使っています。

(市長)

「将来の夢」と「選んだ道」が両方とも、進路的なイメージのある言葉なので気になりましたが、今の話で違いがわかりました。

(教育政策課長)

「道」ではなく、選んだ「場所」や「ステージ」のような言葉の方がいいでしょうか。

(市長)

そうすると、わかりやすくなるかもしれないですね。

(教育政策課長)

今、みなさんからいただいた意見をもとに考えていきたいと思います。

協議事項

2 イマージョン教育について

■学校教育課長 協議事項について資料説明

(市長)

今の説明と資料についてご意見をお願いします。

(内浦委員)

先日の視察に行きましたが、想像を超えて素晴らしかったです。ニーズは間違いなくあります。多くの人たちに豊橋の教育を知ってもらい、興味関心をもってほしいと思います。

(西島委員)

英語を学ぶ環境として素晴らしいです。もっと言えば、ここで学んだスキルを将来に生かせるようになってほしいのと、またそれを生かせる社会になってほしいと思います。

1つ思ったのは、通常コースと比較すると教師の負荷が大きいと感じました。行政として、教師の支援体制をどう充実していくのか、また、教師の負荷をどのように解消していくのかなどについても課題になってくると思います。今のところ、元々できる子どもたち、つまり英語を話せる子どもたちがいて、その子どもたちが周りを引っ張ってクラスが伸びているという印象が強いです。今後は、イマージョン教育を受けることによって子どもがどう伸びていくのかという面で、イマージョン教育の真価が問われるようになると思います。

(市長)

帰国子女など、英語を話すことのできる子がリードしているということですか。

(西島委員)

そうです。帰国子女以外にも、英語で毎日を過ごす保育施設に通い英語が話せる子どももいると思います。

(学校教育課長)

今の5年生は帰国子女が多く、4人います。

(渡辺委員)

授業の進度は、通常コースと比較してどうなのですか。

(学校教育課長)

全体的に大きく変わりません。基礎的な学力にも大きな差はないという状況です。

(渡辺委員)

英語力だけではなく、元々、総合的に力をもっている子たちがイマージョン教育クラスにいるのではないですか。

(学校教育課長)

募集して抽選しておりますが、目的を持って来ている子たちであることは確かです。

(西島委員)

募集のときに興味本位で臨んだ方も、いざ抽選で当選したときには、お子さんの学力や環境などを総合的に考えて辞退する方もいたと聞いています。

(渡辺委員)

今後、応募者がすごく増えてきた場合、定員は増やすことができるのですか。

(学校教育課長)

現在のところは、この定員で進めていきます。指導できる教員の確保が難しいです。

(渡辺委員)

今から将来に向けて準備を進めていかなければならないし、指導できる教員を増やすことを考えていく必要があるのではないですか。

(教育長)

県費の教員を増やすことはできないため、市費で教員を増員するしかなく、現状は難しい状況です。

(渡辺委員)

しかし、応募者がすごく増えたときに、ニーズはあるのに定員は増やすことができないと言いつけることができるでしょうか。八町小だけでなく他の学校でもやるなど、せっかく始めたので縮小するより広げていくべきだと思います。

(市長)

卒業した後の受け皿についても考えていく必要があると思っています。

(中島委員)

受け皿については、模索しながら進んでいくことになると思いますが、きっと、応募者は、これからどんどん増えていくと思います。毎年、就学児に向けては周知していくと思いますが、一般市民にもこのイマージョン教育という取り組みがどのぐらい知られているのかといった調査なども必要になるかもしれません。

(市長)

今、市民の認知度はどんな感じなのでしょう。データなどはありますか。

(学校教育課長)

データはとっていませんが、小学生や年長児には案内をしています。

(中島委員)

案内しているのは年長児なのですよね。もっと下の年の子となるとどのぐらい知っているのでしょうか。先を見据えて育てていきたいと考えている親もいますので、その親たちがイマージョン教育のことを知ったら応募者がもっと増えていくのではないのでしょうか。

また、教師の負担が大きいということですが、支援体制や登下校の安全面なども気になります。イマージョン教育コースの子も通常コースの子も、どちらも納得し合えるような登下校のあり方も議論していく必要があるのではないのでしょうか。

今後は、GIGA スクール構想もあるので、英語の授業もタブレットを使っていくなど、考えることがいろいろとありますね。

(渡辺委員)

明らかにイマージョン教育コースの教員の負担が大きいです。先生方の育成をしていかなければ困ることになるかもしれません。八町小以外の先生方の意識はどうなのでしょう。

(学校教育課長)

関心をもっている方は多くいますが、他校の先生方にはイマージョン教育コースの担任は大変だという印象の方が強いようです。

(西島委員)

イマージョン教育の授業を見ていると、NET の先生と担任の先生の2人で1つのゴールを見いだそうと授業を進めているので大変だと思います。教員と NET が非常に高度な技術で授業を展開していて、求められる授業のスキルは高いと思います。

(教育長)

中学校の英語の免許を持っているだけではだめで、小学校の免許も持っていないとイマージョン教育の担任はできません。中学校の英語教員で小中両方の免許を持っている教員は、他教科の教員より少なく人材は限られます。英語の専科教員なら中学の英語の免許だけでいいのですが、小学校のほかの教科を教えようとするとう小学校の免許が必要になるので、なかなか難しいです。

(市長)

イマージョン教育コースを運営していくには、やはり教員の確保が大きな課題ですね。

(学校教育課長)

学校では1日6時間の授業がありますが、現状は、そのうち3時間の授業をするのが精一杯で、あとの3時間はNET と授業の打ち合わせや準備に使っています。それでないと、2人が連携して授業を進めることができないため、あとの3時間は、校務主任、教務主任が英語でやらない教科の授業に入ることになり、この方々の負担もとても大きいというのが実情です。

(教育長)

これで、1年が経つと、イマージョン教育として必要な教材・教具もそろってきますし、授業の展開も見えて授業案も整ってくると思われまますので、来年度以降は負担が少なく

なるでしょう。今年は、とにかく大変です。

(西島委員)

昨年度、募集に対して応募が多く、倍率がかなり高かったと聞きました。豊橋だけでなく、他県の方もイメージ教育に興味をもったという話も聞いていますので、教育の平等性は大事ですが、この豊橋のスペシャルな教育をブランドとすることもいいと思います。

理想は、希望する全員がイメージ教育を受けられることで、現状は無理ということですが、豊橋の環境の中で、子どもが夢をもち、グローバル意識が高まってほしいと思います。

(市長)

公立小学校では、イメージ教育は全国初ですね。全国的には公立高校でも国際バカロレアが増えつつあって、中高一貫の国際バカロレア校も増えてきています。外資系企業を誘致するにあたり、家族で来日することを考えると、子どもの教育機関がないとなかなか難しいです。そういうことから、中高のバカロレアコースがあるといいのですが、進路の広がりが残念に思います。

(教育長)

今の八町小学校のイメージ教育の子たちが、英語を意識して卒業後に進路を選ぶとなると4つぐらいです。豊城中、地元の中学校、桜丘中、岡崎附属中あたりでしょうか。豊城中学校でイメージ教育を行うのは現実的に無理ですし、インターナショナルスクールも愛知県にはありますが、これは、学校教育法の第一条で認められている学校ではありません。

(渡辺委員)

新型コロナ関連やそのほかのことで、イメージ教育に関して問題は起きていないですか。

(学校教育課長)

イメージ教育コース在籍の子どもかどうかはわかりませんが、通学の際に自動車を校門前につける方がいて困るということは聞いています。路地が狭いので、通学時の学校への乗りつけは避けるようにお伝えしているのですが、守られていないケースも見られるようです。今は、コロナの関係でイメージ教育コースの子は、豊橋公園の野球場のロータリーのところまで車で送迎してもいいことになっています。

(中島委員)

イメージ教育コースの子は、授業後は家庭学習ということでしたか。

(学校教育課長)

そうです。児童クラブへの加入についてはご遠慮いただいております。

(渡辺委員)

八町小で「のびるん de スクール」が始まるといいですね。

(学校教育課長)

イマージョン教育が注目されすぎて、「八町小＝イマージョン教育学校」という認識が広がってしまうことを心配する保護者もいるようです。イマージョン教育コース以外の子も大切な八町小の子どもですので、今後、市教委とPTAなどで懇談会をもって、心配なことや意見等に対応していきたいと考えています。

(市長)

保護者のみなさんは、どういうことを心配されているのでしょうか。

(学校教育課長)

同じ学年であっても「イマージョン教育コース」と「通常コース」が分離してしまうことを心配していると思います。1つの学年の中でコースが分かれていますし、先生方もお互いの学級のことを理解しているのかということも気にかかっているかもしれません。

(西島委員)

「特別なクラス」と「普通のクラス」という捉えだと問題になります。校長先生や教頭先生は、授業の視察では、「両方のクラスを見てほしい」とおっしゃいます。両方あって、八町小学校の教育であるということです。イマージョン教育コースを特別視することがないようにしたいですし、八町小の子どもにとっても、「イマージョン教育コースは特別だ」という意識にならないようにしていきたいです。

(渡辺委員)

どちらも豊橋の教育なので、差別化しないようにしたいです。また、八町小も他校区の学校も、すべて豊橋の学校であり、すべての子どもたちを大切にして豊橋の教育をしているという意識と誇りをもっていたいです。

(内浦委員)

豊橋には、特認校制度がありますよね。イマージョン教育ばかりに目が行きがちですが、豊橋の特色ある教育は幅広くて面白いです。いろいろな特色、例えば、ICTを特色にしたり、体験活動を重視したりしています。先日、主権者教育に取り組んでいる野依小に研究発表で訪問した際に、授業を見てすごく面白いと思いました。教科をまたいで特色ある教育をしているということ、各学校はもっと伝えていってもいいと思います。

(教育長)

今の特認校制度は、小規模校が対象で「嵩山小や下条小などの小規模校なら受け入れができます。」ということになっていますので、それぞれの学校は、各校で特色ある学校づくりを推進しているという状況です。

(内浦委員)

イマージョン教育のように、それぞれの学校で特色ある教育が打ち出せるといいです。特認校制度のような制度があるので、少し手を入れて広げていけるといいかもしれません。大学も市内に3つありますし、小中高特連携に大学が入ってもいいですし、豊橋市には素晴らしい人的資源があります。イマージョン教育コースも特色ある教育の1つであって、各学校も、それぞれの特色をもっと生かしていけるといいと思いました。

(中島委員)

先生方の負担も考えながら進めていけるといいですね。

(渡辺委員)

研究発表校で授業を参観させていただくと、内容はどの学校も素晴らしいです。ただ、それが継続した取り組みになっているか気になります。せっかくいい取り組みなのに継続されていないのもったいない。また、他校の先生方も参観に来ていますが、研究のいいところを本校に取り入れていかないと、発表して終わりになってしまいます。研究発表がきっかけとなり、その良さが市内の学校に広がっていかないと意味がないと思います。いい取り組みをやっているので生かして行ってほしいです。イマージョン教育だけでなく、すべての学校で特別な教育をやっている、ということ先生に自負してやってほしいと思います。

(教育長)

「豊橋の子どもたちは、豊橋の先生たちが育てる」という全体像を見据えて取り組んでいくといいと思っています。「自分の学校の子ども」だけを育てるという意識ではなく、「豊橋の子ども」という見方が大切です。

豊橋はすべての学校で素晴らしい教育をやっている、だから豊橋の教育を受けたい、と思える人が増えてほしいと思います。

(内浦委員)

日本全国から親御さんや人材が集まったらとても面白いですね。大学等も母集団となる子どもたちの教育には協力してくれるのではないのでしょうか。

(西島委員)

企業も同じで、人材の育成や研究の発展などと学校教育は相互関係にあります。学校の教育も、学校だけでは人的資源が十分でないなら、外部と連携して人材を活用していくといいと思います。「のびるん de スクール」も外部人材を活用していますし、枠組みを作れば広がっていきますね。

(中島委員)

みんなが教育に関わることで学びの幅も広がるし子どもたちにとってもいいことですね。先生方の負担軽減にもつながればなおいいと思います。

(内浦委員)

特色ある学校づくりには、企業とパートナーシップを組んで、授業に外部人材を積極的に取り入れることができたならとても魅力的です。キャリア教育にもつながります。

(市長)

地元素晴らしい企業があることも知ってもらいたい機会にもなりますね。

(渡辺委員)

イマージョン教育を起爆剤として、地域の資源を生かして特色ある学校づくりを進めていくといいと思います。学校という場が特別な独立した場所ではなく、学校も社会の中の1つであるという意識が高まれば、子どもたちの社会に対する考え方も変化するかも

しません。社会を巻き込んでそれぞれの特色を生かす学校づくりをしてほしいです。子どもたちには、社会の一員であるという気持ちで主体的に動けるようになってほしいと思っています。

(教育長)

そのためには、まず教員の多忙化解消が必要だと考えています。本来の業務に力をいれられるよう、子どもと向き合う時間を増やし、こんな子どもたちを育てたいという思いをもてるような環境を作っていきたいと思います。

(学校教育課長)

野依小の主権者教育もそうですが、1年でできるのではなく、こんな子どもを育てたいという思いをもって、子どもを中心とした教育を進めてきたことの成果です。豊橋は、これまでも子どもの考えを大切にされた教育を進めてきましたので、これからも継続していきたいと思います。

(渡辺委員)

どの仕事もそうですが、やらされた仕事は嫌なものです。子どもたちには主体的に学んでほしいですが、先生たちにも主体的に動いてほしいと思います。

(中島委員)

民間のエキスパートな人的資源の活用とともに、公的機関の資源も活用していけるといいですね。学校と外部の連携が、教育に相乗効果をもたらしてほしいです。そして、先生方の負担も減っていくといいと思います。

(教育長)

先生になりたいと思える若者を育てることが必要です。先生になりたいと思える環境を作ることが大切です。

(渡辺委員)

先生がやりがいを感じることができる教育について、われわれ教育委員会で考えていきましょう。

連絡事項

- ・ 次回開催日程 令和3年2月17日(水) 15:00～

(市長)

以上で、令和2年度第3回豊橋市総合教育会議を終了します。ありがとうございました。